【授業科目】基礎病態学　　Basic Pathology and Clinical Laboratory

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦、森 啓至、杉浦 諭 小菅 優子、大島 茂、榎本 嘉彦	１年次 後　期	必　修	1	３０	講　義	あり	巻末 記載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要：疾患を発生異常、進行性病変や退行性病変などの代謝異常、腫瘍性疾患、炎症と免疫、感染症、循環障害、成長と老化に分類し、臨床病態を学ための基礎を学習する。 本講義では、人体組織の機能障害を臓器別に分類し、様々な疾患の臨床病態を学ための土台となる基礎病態について複数の教員が病理学的な視点から講義する。 課題に対するフィードバック方法：課題を課した場合には担当教員が解説し返却する。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査士技師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な基礎病態の知識について、病態に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	・　病気および病的状態を分類して説明できる。 ・　病気の原因、発生の仕組みを学び、生体の反応や経過の特徴、転機を説明できる。 ・　病態の把握における臨床検査の仕組みと数値を理解して説明できる。
時間外学習に必要な 内容・時間	第1～15回事前学習：教科書の該当頁を事前に読んでおくこと。（各30分） 第1～15回事後学習：講義で学習した内容を復習しまとめる。（各60分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	≪総論≫ 第１回　病気と病理学　（担当：小菅）　高崎 第２回　病気の原因、仕組みの概要、公害　（担当：高崎）　森 第３回　発生と先天異常　（担当：大島）　杉浦 第４回　組織学的変化の基礎知識　（担当：杉浦）　小菅 第５回　代謝障害　（担当：高崎）　大島 第６回　循環障害　（担当：榎本）　榎本 第７回　炎症　（担当：森）　が授業計画に沿って 第８回　免疫とアレルギー　（担当：森）　オムニバスで担当 第９回　感染症　（担当：森） 第10回　腫瘍総論　（担当：小菅） 第11回　腫瘍と遺伝子検査　（担当：大島） 第12回　成長、加齢と老化　（担当：高崎） ≪各論≫ 第13回　血液の異常　（担当：高崎） 第14回　呼吸器の異常　（担当：榎本） 第15回　循環器の異常　（担当：榎本）
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末定期試験　100％
教科書	系統看護学講座専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進(1)　「病理学」（医学書院） 参考書等：病気がみえるシリーズ（メディックメディア） 看護のための臨床病態学（南山堂）
学生への 助言等	病気がどのような仕組みによって発生していくか、総論を重要視して講義をします。正常と異常を区別して、病態と臨床検査を結び付けて理解できる学習すること。 臓器別の各論では全身の病態に深く関与する臓器の特性などについて講義をします。